



http://www.minoh-hp.jp

編集発行：箕面市立病院 患者サービス・広報委員会 ☎072-728-2001(内線2206)

INDEX	1. 市民医療講座のご案内	—————	P.1	6. 診療科からのメッセージ	—————	P.6
	2. 新型インフルエンザの現状と今後	—————	P.2	7. 新任医師紹介	—————	P.6
	3. 地域医療室だより	—————	P.3	8. 部門紹介	—————	P.7
	4. Wave of Nursing (看護局ニュース)	—————	P.4	9. 納涼コンサート	—————	P.8
	5. みなさまの声	—————	P.5	10. 患者給食における地産地消の取り組み	—————	P.8

今年度から『市民医療講座』を開催します

今年度から、各診療科の専門医が、診療内容や最新の情報をお伝えする「市民医療講座」を開催しています。

まず、第1回目は、9月9日(水)には、総合診療科部長 白銀による「お腹が痛い！本当に胃腸の病気？」と箕面市医師会からほそいクリニックの細井院長による「その症状、もしかして??～ちょっと意外な脳卒中～」、10月3日(土)には、箕面市医師会 笠原会長による「新型インフルエンザ発熱外来の状況と今後の課題」及び当院の副院長 山本による「新型インフルエンザの予防と最新情報」を実施いたしました。

次回以降のスケジュールは、一覧のとおりです。市民のみなさま、患者さまやご家族のみなさまの多数のご参加をお待ちしています。

※新型インフルエンザの流行中につきマスクをしてご参加ください。



参加無料・要約筆記あり

日	日時	テーマ・講師	場所	手話通訳希望の方
1	11月7日(土) 午後2時～午後4時	気をつけよう！しのび寄る糖尿病 内科部長 小室 竜太郎 	箕面文化・交流センター 8階 大会議室	10月28日(水)までに経営企画課にお申し出ください。
2	1月23日(土) 午後2時～午後4時	形成外科ってどんな時にかかる ～皮膚腫瘍、眼瞼下垂、顔面骨折など 形成外科主任部長 桑江 克樹  知ってるようで知らない じんましん 皮膚科主任部長 松本 千穂	市立病院 リハビリテーション棟 4階 いろはホール	1月13日(水)までに経営企画課にお申し出ください。
3	2月6日(土) 午後2時～午後4時	つらい！関節が痛む 変形関節症の手術治療  整形外科主任部長 津田 隆之	メイプルホール 小ホール	1月26日(火)までに経営企画課にお申し出ください。

お問合せ先 市立病院事務局 経営企画課 電話 072-728-2034 FAX 072-728-8232

新型インフルエンザの現状と今後

副院長 山本 威久

今年5月から豚由来の新型インフルエンザ(H1N1)が流行し、現在も感染者が発生しています。この新型インフルエンザは、今年4月にメキシコで確認されてから世界的大流行(パンデミック)を起こし、10月4日現在、世界で約37万人以上と推計され、厚生労働省は日本における新型インフルエンザによる入院患者数を10月20日までで2,755人と報告しています。

インフルエンザウイルスは低温と乾燥した環境を好みますが、高温多湿の日本の夏においても新型インフルエンザが流行しました。これまで、夏のインフルエンザは、小さな流行が散発的に報告されてきましたが、今回は多くの地域で流行しました。その理由の一つとして、今回の新型インフルエンザは“新型”であり、我々人間が以前にウイルスと遭遇したことがないことから、体の中に入ってきたウイルスを撃退する抗体を持っていないため感染を防ぐことが困難であると考えられています。

箕面市立病院においては、今年5月に17名の新型インフルエンザ患者が受診されました。6月にはほぼ終



息しましたが、その後7月以降にも新型インフルエンザ疑いの患者が確認されています。

一方、WHOは10月4日現在の世界の新型インフルエンザ患者数378,223人中死者は4,525人(死亡率1.2%)と報告しています。この数値は、季節型インフルエンザの死亡率0.1%より多く、WHOは1957年に世界で流行したアジア風邪と同じくらいの毒性を持つインフルエンザではないかと想定しています。

日本では、通常の季節型インフルエンザに対しては、迅速検査(やや痛い検査でご迷惑をおかけしますが)を行い、早期にタミフルで治療してきた実績があること、また日本人はマスクをつける習慣があり、日本での感染拡大が外国より比較的少なかったことが重症化する人が少なかった理由の一つではないかと思われます。

今年の秋から冬にかけては、季節型インフルエンザと新型インフルエンザが同時に流行することが予測され、多くの方がインフルエンザに罹患する可能性が高いと考えられます。今回の新型インフルエンザは、1) 迅速検査での陽性率が40%~70%と低いため、迅速検査のみでは診断が難しいこと、2) 季節型よりは感染力が少し高い可能性があること、3) 外国のデータでは小児や20歳~30歳の若い成人、妊婦及び中年の肥満の方の死亡率が高いことなど、多くの点で季節型インフルエンザと異なります。



このような状況を乗り越えるために、箕面市や市立病院ではその対策を検討し、具体的な対処法を10月号の「もみじだより」や「箕面市のホームページ」などで、市民のみなさまに情報提供を行っています。

新型インフルエンザは約30年に1度訪れる“感染症に対する人間の試練”のようなもので、今年を乗り切れば来年からは豚由来の新型インフルエンザ(H1N1)は通常の季節型インフルエンザの仲間入りすることに

なります。

市民のみなさまには、新型インフルエンザを恐れることなく、箕面市や箕面市立病院から提供される最新情報を正確に把握していただきますようお願いいたします。

少し早いですが“一緒に越年し”、新型から季節型へのインフルエンザの変化を見届けようではありませんか！

地域医療室だより



地域医療室からのお知らせ

地域医療室では6月から新しく2名のMSW(医療ソーシャルワーカー)がメンバーに加わりましたので紹介します。現在、室長以下総勢8名で退院支援などの医療相談業務と地域医療機関との連携業務の充実に努めています。院内で見かけたら気軽に声をかけてください。



○ 十河千愛

6月から地域医療室でMSWとして入職しました。そごうです。今までは主に北摂地域の民間病院や老人保健施設でMSWとして勤務してまいりました。MSWの立場で地域医療の充実に貢献できるよう努力したいと思っています。よろしくお願いいたします。



MSWとは
(Medical Social Worker)

保健医療機関において、社会福祉の立場から患者さまやその家族の方々の抱える経済的・心理的・社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図る業務を行います。



○ 中本浩平

この6月から地域医療室にMSWとして配属になりました、中本浩平です。これまで堺市や大阪市内の病院や特別養護老人ホームで相談員として勤務してきました。私自身、今年の3月に結婚し北摂に転居してきたばかりで、まだ不慣れな状況ですが、みなさまのお力になれるよう頑張っていこうと思います。よろしくお願いいたします。

病院ボランティアに参加してみませんか？

活動内容は、主に外来患者さまのサポートで、診察手続き時の補助、院内の案内、車いす利用者の介助です。経験のない方には、オリエンテーションなども行いますので、病院ボランティアに参加してみませんか？

また、今後は、新たな活動のボランティアも募集しています。みなさまの特技をボランティアとして活かしてみませんか？お申し込みをお待ちしています。

ボランティアに関するお問い合わせは、病院管理課へ電話・FAX・電子メールのいずれかでお願ひします。

〈病院管理課〉

・電話：072-728-2001(内線2253) ・FAX：072-728-8232 ・電子メール：hoskanri@maple.city.minoh.lg.jp

Wave of Nursing (看護局ニュース)

看護師スキルアップ公開研修のご紹介

看護局参事 中尾 美佐恵

当院では、平成18年に看護師スキルアップ公開研修を開始し、現在4年が経過しました。今回は研修の目的や内容、受講生の感想も含めたこれまでの経過を紹介したいと思います。

研修目的は「当院で実施しているコース別研修を院外からの参加者に公開し、市立病院として箕面市および近隣の看護師・助産師のスキルアップの一助を担う」です。近隣の医療機関にお勤めのかたもしくは現在未就業のかたを対象に、潜在看護師の力を引き出し仕事に復帰しやすいように、地域の中核病院として自己研鑽の支援を実践しています。この研修のお知らせは、毎年「もみじだより」および「病院ホームページ」に公開研修スケジュールを掲載しています。

研修は、主に院内看護師の教育目的で行う研修項目のうち、地域で働く看護師のかたがたにも知ってほしい知識や技術をピックアップして院

内看護師とともに受講していただきます。講師は院内の各診療科医師もしくは1つの分野において専門の教育を受けた認定看護師や薬剤師・栄養士などに依頼しています。その内容は、現在社会的現象にもなっている生活習慣病に関する講義や感染防止対策に関する知識や技術、床ずれ防止のためのケア方法や栄養管理に関するものまで幅広く、多岐にわたっています。1回の所要時間は1時間～1時間半で、仕事が終了し帰宅までの時間を少し延ばして行っています。なかでも昨年開始した「認知症看護研修」は申し込み数が最も多く、高齢化社会における自分たちのさまざまな課題や問題点を認識していることが伺えます。

受講生の感想は「興味深い内容で、これからたくさんの人に伝えていきたい」「実際ケア方法を体験できてよかった。帰ってから資料をもとに振り返りをしたい」など、前向きな意見が多く、今

後も受講生が期待する研修会が行えるように参加者の多くの感想や意見を取り入れ、継続していきたいと考えています。

今年度もスキルアップを実施いたします。ぜひご参加ください。



診療科からのメッセージ

脳外科の紹介



主任部長
久保重喜

当院では脳外科は開院当初からあり、現在の顧問の岩田医師が中心となり、積極的に新しい手術を導入して箕面地域の患者さまの治療に貢献してきました。

スタッフは多いときで3人体制で、その時には脳外科救急疾患にも対応していました。しかし脳外科医不足と言われる現在、当院にもその影響が及び常勤医は私一人となっています。したがって、残念ながら、夜間救急手術などには対応できていないのが

現状です。

外来は大学からの応援医師の援助もいれて週5日開いています。一人では対応しきれない疾患があれば、専門の病院へ適切な紹介をしています。また、手術の場合は阪大から応援医師を手術助手として派遣してもらっています。

従来の脳外科手術のイメージは、翌日までかかる大変な手術で多くは麻痺が残ったり生命の危険を伴ったりするものと一般には受けとめられています。しかし、最近では脳動脈瘤のコイル塞栓術、ガンマナイフ、神経内視鏡手術などの患者さまへの負担が少ない手術が行われるようになってきました。当院でも今後、神経内視鏡手術を中心に新しい技術を導入して行きたいと思っています。



新任医師紹介



①所属科 ②卒年 ③自己紹介



山本 勝輔

①小児科
②昭和61年卒

③7月から小児科主任部長として勤務しております。小児腎臓病が専門ですが、前任地では小児喘息をはじめ一般小児科疾患も診てきました。今までの経験を生かして、少しでも当院に貢献できるようにしたいと存じます。



西本真由美

①内科
②平成6年卒

③2年間総合内科で非常勤として勤務しておりましたが、この春からレジデントとして働かせていただく事になりました。しばらくぶりの病棟勤務で、不慣れなところや分からないところが多々ありますが、一生懸命頑張ります。どうかよろしくお願い致します。



辻本 俊弥

①耳鼻咽喉科
②昭和54年卒

③今まで川島先生一人だけだったので手の回らなかった、補聴器など難聴関係もやっといこうとおもっています。よろしくお願ひします。



飯田さよみ

①内科
②昭和49年卒

③現在吹田市に住んでおりますが、箕面市には何年間も居住したことがあり、懐かしく思います。これまでの糖尿病チーム医療経験を活かし、箕面市を中心とした糖尿病地域連携医療の充実に務めます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



岡本 泰典

①整形外科
②平成15年卒

③岡山大学卒業後、大阪大学整形外科教室に入局しました。いくつかの関連病院で勤務した後、最終的に神戸市の川崎病院から転勤となりました。整形外科では股関節・膝関節など関節疾患を中心に診察しております。よろしくお願い致します。

部門紹介

薬
劑
部

薬剤部は、患者さまに安全かつ効果的な薬物療法を提供することを目的とし、さまざまな業務を行っています。また、基本理念のもとに薬剤師が多方面からチーム医療に携わり、医師・看護師など他の医療スタッフと連携した薬剤業務の遂行に努めています。

薬剤部の主な業務を紹介します。

●内服・外用薬調剤業務

入院及び時間外救急外来患者さまに処方された内服・外用薬を調剤しています。処方されたお薬の内容・飲み方・服用量・飲み合わせなどに問題が無いかを確認し、必要に応じ医師に確認をした上で調剤を行います。外来患者さまのお薬は原則として院外処方せんにより「かかりつけ薬局」で調剤していただきます。

●注射薬調剤業務と混合調製業務

入院患者さまに使用される注射薬についても内服薬と同様に、適正かつ安全に投与するために処方内容を確認した上で調剤しています。入院患者さまの点滴は、薬剤部の注射薬調製室内に設置しているクリーン

ベンチ（作業スペースを無菌にするための装置）を用い清潔な環境下で調製しています。また、がん化学療法が適正かつ安全に行えるように投与計画や投与量の確認をした上で抗がん剤の混合調製を行っています。外来の点滴センターにも薬剤師が常駐しており、外来患者さまのがん化学療法をサポートしています。

●薬剤管理指導業務

患者さまの入院時に、普段服用しているお薬の内容・アレルギー歴の有無・服用状況を確認しています。患者さまから得られた情報を医師・看護師などに伝達することにより薬物療法の支援を行っています。入院中に処方されたお薬の効果や副作用、服用方法などについて患者さまのベッドサイドに直接伺って説明をし、正しくお薬を服用していただけるよう努めています。

今後とも患者さまに安心して薬を服用していただけるよう薬剤部一同日々の業務に取り組んでいきますので、よろしくお願いします。



3列目 左から今井主任、仲下主任、戸祭主査、浅田、成清、森下、宮下、村木
2列目 左から松岡、原田、名加部長、榎、石川、白川担当主査
1列目 左から木曾、檜山、古森、中西、川端主査

納涼コンサート

8月3日、15時からの約1時間、1階リハビリ前ホールで「納涼コンサート」が催されました。

コンサートはフルートのやさしい音色で始まり、小学生とは思えないセミプロ級のみごとなギター演奏や澄んだソプラノの歌声、南米のアルパというハープのエキゾチックな弦の響きに、会場からは思わず手拍子が起こりました。参加者は50人を超え、午後の蒸し暑い昼下がりはあっというまにさわやかな演奏に包まれ、「納涼コンサート」は好評のうちに終わりました。

12月21日(月)午後3時からクリスマスコンサートを行います。今年は、職員の手作りのコンサートを企画しておりますので、ぜひ、お越しください。

*新型インフルエンザの流行中につきマスクをしてご参加ください。

患者サービス・広報委員会 羽田誠子



～患者給食における地産地消の取り組み～

近年、農産物に対する安全・安心志向の高まりや生産者の販売の多様化の取り組みも進み、地元で生産されたものを地元で消費する「地産地消」への期待が高まってきています。そこで、当院患者給食においても、地元での食料自給率と患者給食満足度の向上を目指し、地産地消の取り組みを進めています。



7月には止々呂美の農家で採れた「びわ」を患者食で提供しました。患者さまからは「おいしくいただきました。」「地元の物が食べられるのはいいね。」などの感想を聞くことができました。止々呂美のびわのイラストや地産地消の説明入りのメッセージカードも添えて提供されたびわは、みのおの自然、農作風景への思いと完熟した甘みで、患者様の心をも和ませた1品となったのではと思っています。

今後の取り組みは、箕面市の農産物に限らず北摂地域や大阪府全域にまで広げて、生産者の顔の見える地域の農産物を使用し、地産地消に取り組んでいきたいと考えています。

11月には、茨木(玉島)産の「菊菜」、収穫時期には小野原で採れた箕面産の米「ヒノヒカリ」の提供も計画中です。

栄養部長 篠木敬二

青空 (編集後記)

秋も深まってきました。箕面の山の紅葉が今年もまた美しいことを期待したいものです。

新型インフルエンザが猛威を振るうなか、ワクチン接種、手洗い、うがい、マスク着用、咳エチケットなど、徹底的に予防してさわやかな季節を乗り切り、楽しみましょう。